

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101706
法人名	有限会社 ドゥ・ライフ
事業所名	グループホーム ゆう
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市元石川町2523番地 (電話)029-247-3177

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月14日	評価確定日	平成19年11月5日

【情報提供票より】(19年4月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人, 非常勤3人, 常勤換算13.8人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(退居時修繕・清掃費 差引き残金返却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(4月27日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高橋外科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街から離れた静かな環境の中に位置する。室内は天井が高く、ホールはガラス張りになっているため開放感があり明るい。庭に畑があり入居者は季節の野菜を作り、それを食する楽しみもある。また、犬やウサギとふれあう事もできる。入居者の家族が庭の手入れを手伝ってくれたり、近隣の方が野菜を持ってきてくれたりと、交流も行われている。職員は明るく入居者に接し、お互いに助け合いながらの生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に向けての取り組みでは、自治会への働きかけを行っている。また、アセスメントや記録に対して重点的に取り組み、内容の検討を行った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に行ったが、会議等で職員の意見も聞いて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームでの取り組みの報告や地域・家族からの意見、行政からの意見などを聞く場としている。前回の会議の中で出された家族からの意見を取り入れ、ケア内容に活かす取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回、入居者の様子を手紙にし送付している。更に、状態の変化に応じての報告も行っている。苦情に対してはノートを作成し、ミーティングで話し合いを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われるお祭りへの参加や、近隣の方が庭の手入れの手伝いをしてくれるなど、交流が持たれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今まで掲げてきた理念の中に、ホームが地域の中で何ができるかという点を加えることを検討をしている。		今までの理念を大切に活かしながら早期の見直しに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念が書かれたカードを持参し、日々の振り返りを行っている。		今後、新しい理念の共有を職員間で行っていき、地域に向けての啓発も合わせて行う事が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りへの参加などが行われているが、自治会や老人会への入会などは現在働きかけを行っているところである。	○	自治会への入会を早期に行い、地域の一員としての活動参加を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価で改善点とされた項目については、積極的に取り組んでいる。		今回の自己評価についても全職員で評価の意義について話し合い、改善に向けた取り組みを行う事に期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの取り組みや出席者の意見交換などを行っている。また、質問などにも随時返答している。		

茨城県 グループホーム ゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不定期ではあるが、介護相談員の受け入れを行っている。また、運営推進会議のあり方についても意見交換をしている。		今後も市への働きかけを継続して行う事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に入居者の様子を手紙にして送付している。今後はスタッフが持ち回りで手紙を書き、より詳細な内容にしたいとも考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望はスタッフ間で話し合い、意向に沿えるように取り組んでいる。また、苦情に対してもノートにまとめ、家族も含めた話し合いを行っている。		今後は家族会の発足などを行い、家族同士での意見交換の場を作る事が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の移動があったが、職員間での連携を図る事で混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティングを利用した内部研修や、外部研修への参加を行っている。また新人職員に対しては、勤務に慣れるまでタイムスケジュールを組み他の職員が付いて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会、老人福祉施設協議会に入会しており、情報収集を行っている。また、地域のグループホームとの交流も行われ、勉強会なども行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族に見学に来てもらい、顔馴染みになる機会を設けている。また、居室が空いている時には泊まりも支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除の方法や季節の行事など、日常多くのことを自然に入居者に教えてもらいながら過ごしている。		今後は入居者の新しい情報や生活歴などの把握をより詳細に行う事で、更に充実した支援が望まれる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がやりたい事には迅速に対応できるよう取り組んでいる。また、意思疎通の難しい入居者に対しては、表情の変化などで意向を把握できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回の介護計画は入所後1～2週間、本人の様子を観察し情報収集・アセスメントを行ってから職員間で話し合いを持ち作成している。また、家族や本人の意向も確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録は介護計画に沿った記録があり、ケアのチェックシートも一枚で見られるようになっている。モニタリングも行われ、定期的な介護計画の見直しがされている。		今後は家族の意向を見直し時期に合わせて確認していくことで、より良い見直しができる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他の市町村からの入所に対する問い合わせや相談に対し、その市町村との橋渡しをしている。ショートステイ、デイサービスについては現在申請中である。		ショートステイやデイサービスに対しての体制作りをする事で、サービスを開始した際の混乱を避ける取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な協力病院があり、往診もしている。また、他の医療機関への受診も支援している。緊急時用に入居者の基本情報(既往歴・内服など)がわかるファイルが準備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期の受け入れに対しスタッフの意識も高いが、現時点での体制作りは難しい面がある。	○	今後、ターミナル期以外の入居者への影響や家族との連携、スタッフの対応方法など体制作りを行い、ケアの統一への取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の介助に対し、職員間で番号を決め他の入居者にわからない様になっている。個人情報についての承諾書も入居時に受けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は今までの個々の暮らしに近づけられるよう取り組んでいる。例えば、喫煙や飲酒など嗜好品についても健康状態に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度は居酒屋を行ったり、季節の行事の食事を提供している。また、畑で収穫した野菜の調理や片付けなどを、入居者と共に行っている。胃ろうの方も昼食は経口摂取できるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間に入浴ができるよう支援している。現在、夜間の入浴希望は出ていない。		夜間の入浴希望が出た場合には対応できるような体制作りが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	図書館で本を借りてきたり、居酒屋を楽しんだりと楽しみごとを設けている。役割は自然に職員の手伝いをしてもらえるような取り組みがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外食などへ出掛ける機会は多くある。また、墓参りや紅葉狩り、たけのこ狩りなど、非日常的な外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかかっておらず、入居者は自由に出入りできる。職員は入居者の行動を把握し、安全に戸外へ出られるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は行っているが地域との連携や、災害時用の非常食などは整っていない。	○	消防署と連携しながら、地域への働きかけを行ったり、非常食などの整備が望まれる。また、ホーム自体が避難場所として活用していけるような体制作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士会の指導のもと、献立の詳細なカロリー計算を行っている。水分量も詳細に個人記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の途中にベンチとなる収納があったり、畳の置かれた空間があり寛げるようになっている。また、そこからデッキにいけるようになっており犬やウサギとふれあえるようになっている。季節の花が飾られ、落ち着いた雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、畳とその人に合った居室作りがされている。壊れているものでも、本人のこだわりの物を大切に使用している。		